東京门組青年研修

東京八組というのは都内にある真宗大谷派の寺院を一がりまでの グループに分けたうちのパ組目。

源通寺は東京八組に所属におり、今回は八組の若手(各寺院の住職・副住職) の有志が集まり仙台の被災地へ研修に行ってきました。

関上地区など、海に近く被害の大きか、た場所では、地面の庭上げ工事がされて おり、大量の土を積んだトラックが列をなして往復していました。海沿いにあた防風。 防潮のための松林はポツポツと松が残っているだけでした。この松は想定していたよりも 根が浅く、津波によってあ。という間に流され、防ぐためにあったはずか、流された松により 家が破壊されたり、人間を押し流したりと結果的に逆効果になってしま,たそうです。

その他にも海の近くにある海楽寺(真宗大谷派)をお訪ねし、坊宇・前坊宇心当時の 状況を写真を見なからご説明いただきました。海楽寺の前住職は津渡い流されるも 近くいあった木につかまり一度は助かったのですが、冷たい海水に長時間浸かていた影響により その後お亡くなりになりました。

津波により瓦礫と泥が山のように押し寄せた本堂や庫裡は、当時の写真を見せていただべまで 気がつかないほど綺麗にご修復されていました。

てくなられたこ住職(当時)をその場に残し、牧助へりで何とか救出され助かたという前坊宇のお気持ち は本当に辛いものだったと思います。そしてその話をわざめざ私たちにしてくださったことには 窓謝の言葉しかありません。

今回は日帰りという強行日程での研修でしたが、東日本大震災により 被災した地域を 何箇所か見て目ることができました。流された家の基礎部分だけかそのまま残された 海沿いの地域、五年経ってもまだまだ復興できていない場所も夕い状況、彼災された方だ がこの経験をしかりと伝え残そうとする姿など、メデアからは伝わってこない現地の「今」を 知ることができたのは非常に貴重な経験となりました。

最後に、各地を窮内してくださった東北別院の藤井様、関上の記憶」の方。、 海楽寺の坊守・前坊守様、ありかとうございました。

副住職釋药翔

(今回お訪ねした場所)

東北別院~名取市開上地区~開上の記憶、~海楽寺~仙台市荒浜地区

フォトレオ"脳宮北県



津波の最高致達点を表わした モニュメント・先端かる高さ。 (名取市関上地区)



被災した小学生達により制作された模型。 当時受けたショクを内に留めないように という思いから制作に至った。(関上の記憶)





四の完全なる復興は難しいけれど心が前に向めて進んでいることを 感じた貴重な研修でした。



こ修復された本堂(正面)と庫裡(右)。 津波により大量のガルキが流れ込んだ。(海楽寺)



流された住宅の基礎部分。 今も当時のまま残されている。(仙台市荒浜地区)